

平成28年度 学校の森研究実績報告書

ふるさと秦梨の人・自然・未来 ～地域に学び、考え、発信しよう～

- 1) ○研究授業対象学年・・・6年生8名
○屋外／屋内別年間授業数・・・14時間／54時間
○対象教科・・・総合的な学習の時間、図画工作
- 【屋外】 ・キンラン・ササユリ調査・・・2時間（総合2）
・にこにこ山と砂防ダム（観察・遊具看板撤去・作品取付け）
・・・6時間（総合4 図工2）
・山の先生から学ぶ（里山レスキュー・山仕事の会・炭焼き体験）
・・・6時間（総合6）
- 【屋外】 ・砂防ダムとにこにこ山を考える（飾る作品制作も含む）
・・・20時間（総合8 図工12）
・秦梨のよさと未来に残したいものを考える
・・・10時間（総合10）
・ジャパンアートマイル活動（フォーラム・壁画作成・鑑賞）
・・・24時間（総合12 図工12）

- 2) 各教科で伸ばそうとした能力やねらい
- 総合的な学習の時間
- ・地域に直面している問題とその原因を捉え、解決しようとする力
 - ・問題解決のために、自分たちができることを考え実行する力
 - ・地域のよさを再認識し、地域へ愛着を深める力
 - ・学習したことを表現したり発信したりする力
- 図画工作
- ・地域への思いや願いから表したいことを見つけて表現する力
 - ・伝え合いたいことを協働的に表現する力
 - ・相手の思いを感じながら話し合い、作品の意図や特徴をとらえる力
- 3) ねらいを実現するための授業づくりの工夫点
- ・にこにこ山の観察と以前の写真と比較する活動
 - ・砂防ダムの必要性和環境保全の大切さの



【里山レスキュー】



【山仕事の会】

対比という視点をもつ

- ・家の人からの聞き取り調査活動
- ・海外の子供たちとの交流
- ・地域の中学校主催の「ホテルサミット」への参加・発表
- ・協働的なものづくり
- ・制作した作品の鑑賞・活用



【壁画作成】



【ホテルサミット】

4) 学校の森の取組で成果のあった点

- ・防災と環境保全を対比させることで、にこにこ山を守りたいという思いが強くなり、里山再生に向けて目的意識をもって活動に取り組めた。
- ・ウガンダの子供たちと交流することで、自分たちが生活する学校や地域を見つめ直すよい機会となった。その中で、ふるさと秦梨のよさだけでなく、昔と比べて変化したことや現状の問題点に目を向け、秦梨の未来に残したいものをイメージできたことは大きな成果であった。

5) 今後の課題

- ・秦梨の未来への思いを具体的な活動へとつなげていくことが大切である。そのために地域の人との交流をさらに価値あるものにし、計画的に地域の人からの支援を得る必要がある。



【砂防ダムの授業】

6) 地域の指導者等の学外者の協力

- ・山の先生



【にこにこ山に飾る作品制作・炭で作った恐竜】